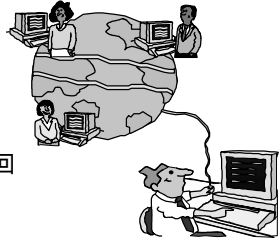


桃論

考える技術
まとめとして



2006年7月8日 法大EC第5回

momo

ITが普通にある時代に 「私」は如何に生きるか

momo

そして、私たちは
経済活動に
接続しなくてはならない

momo

象徴の貧困



ベルナール・スティグレール(著)
ガブリエル・メランベルジェ + メランベルジェ(訳)
2006年4月25日
新評論

momo

「私」と「われわれ」

ベルナール・スティグレール

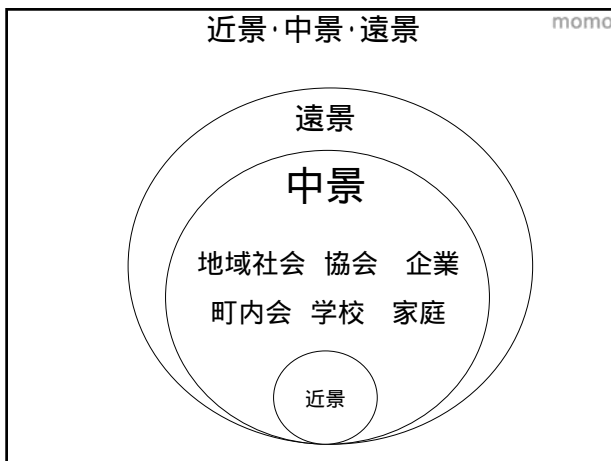
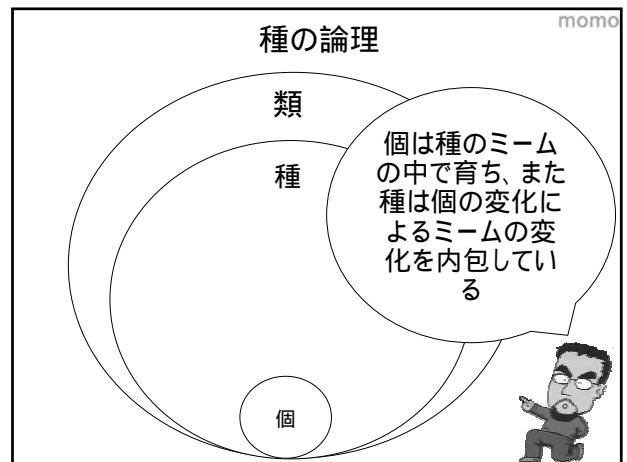
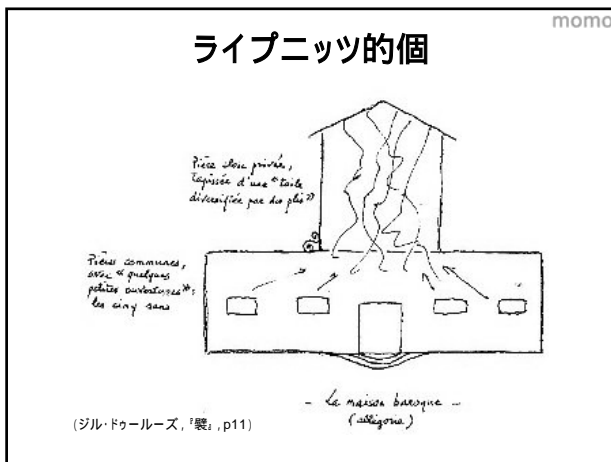
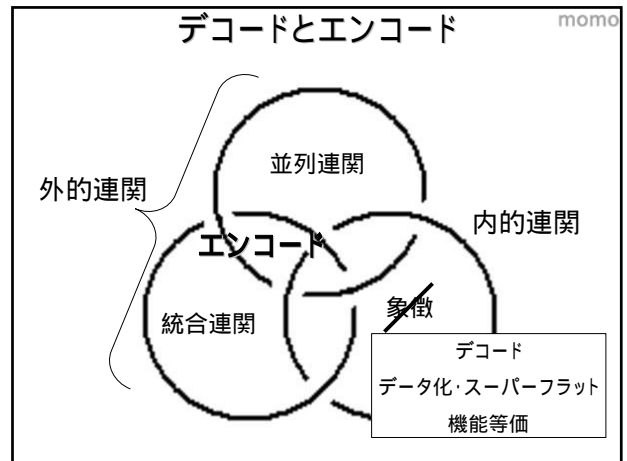
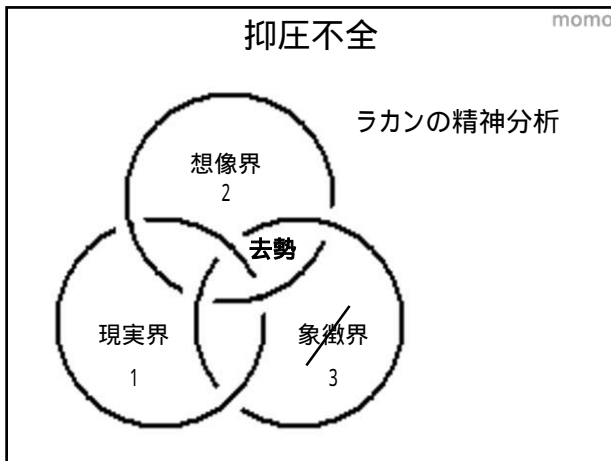
momo

鏡像段階



$2 = (1 + 1) = 1$ (主客非分離)

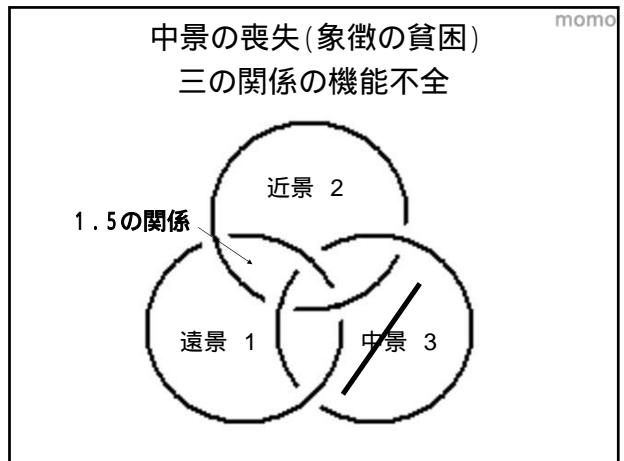
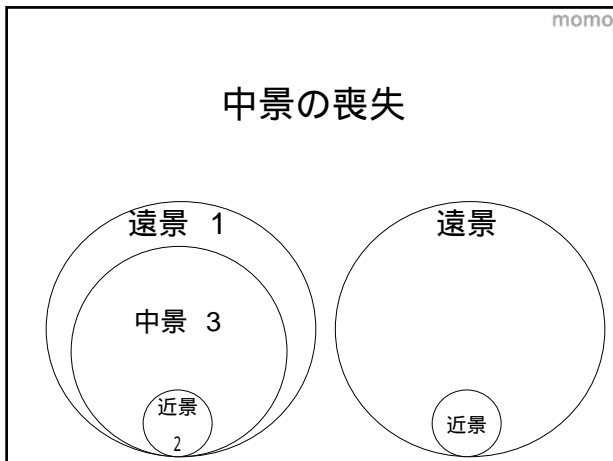
momo



依って立つ地面

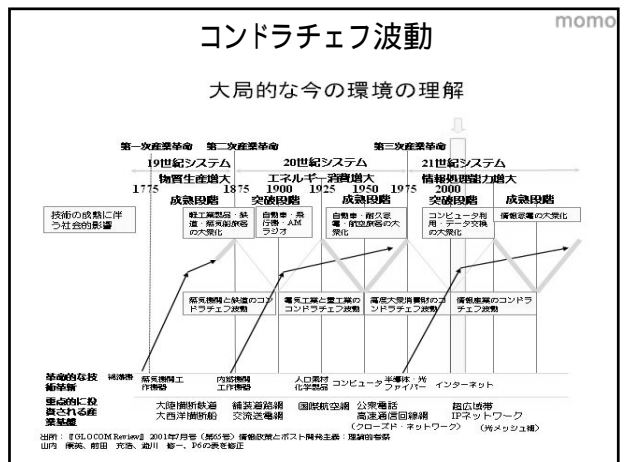
共同体性

momoto

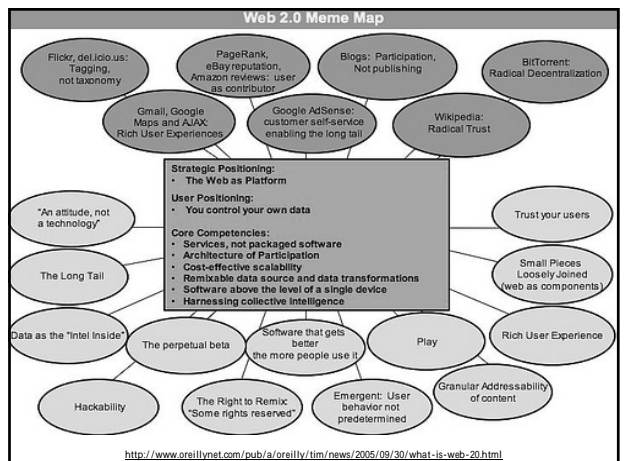


技術による
個体化

(シモンズ)



フラット化
は
止まらないだろう



Web2.0 meme

1. Tagging
Social Tagging, つまりはFolksonomy
階層分類学としての分類ではない、
つまりユーザーの手で自由に分類するということ、
Flickr, del.icio.us(「デリシャス」と発音する)
2. Rich User Experiences:
直感的操作性 Gmail, GoogleMap, AJAX
3. User as contributor
寄稿者、投稿者としてのユーザ、つまりユーザーの意見が力をもつ、
PageRank, eBayのユーザ評価, Amazonレビュー
4. customer self-service enabling the long tail
ロングテールを巻き込むために、ユーザーが自分でできる機能を与える、
Google AdSense
5. Participation
Not publishing, つまり出版のように押し付けではなく、ユーザーが参加して作り出すコンテンツ、 Blogs
6. Radical Trust
信頼への過剰な期待、(笑) Wikipedia
7. Radical Decentralization:
進歩的分散志向、 BitTorrent

信念フィルタの外在化

「個人」
限定された自律性をもつ
エージェントモデル
「ダーウィン文化論」ロザリン・コンティ p107

コントロール社会

消費者としての個人

Web2.0でのコミュニケーション

マラルメ詩が小さな帆船に乗り込んで漕ぎ出した、近代の荒れ狂う多様体の海は、百年後には比較的穏やかな乱流となって、表層の全域にそのカオスの運動を繰り広げるようになった。そのことは、もはや「高踏的」な知的エリートばかりではなく、インターネットを手にした多くの大衆の体験し、知ることとなったのだ。マラルメはその多様体の隅々にいたるまで意識のネットワークを張り巡らせ、大切な接続点でおこっていることすべてを言語化しようと努力した。これに対してネットワーク化した社会を生きる大衆は、小さな自己意識の周辺に集まってくる無数の前対象を、反省に送り返すことなくイメージ化することによって、現実の表現をおこなっているに過ぎない。それはとりたてて素晴らしいことではないが、かといって陳腐なことでもない。ハイブリッドの氾濫、それはまざれもない現実であり、十九世紀にマラルメのような人物がはじめて意識した問題は、いまや今日の大衆の実感になっている。(中沢新一:「フィロソフィア・ヤボニカ」:p365)

コミュニケーション

(ニクラス・ルーマン)

人間の条件

アンナ・ハーレント

動物的	レイバー(労働)	生物的な欲求
	ワーク(制作・仕事)	職人的創造から芸術的な創造
人間的	アクション(活動)	コミュニケーション

ハーレントのいう「真に人間的」なものであるアクションを純化していったら、つまりコミュニケーションのためのコミュニケーションをレイバーやワークとの関係から解放していったら、人間的じゃなく動物的になってしまう。

動物化 昆虫化

フラット化する社会



トーマス・フリードマン(著)
伏見威番(訳)
2006/05/25
日本経済新聞社

Web2.0 に対する楽観

世界をフラット化した10の力

1. ベルリンの壁の崩壊と、創造性の新時代
2. インターネットの普及と、接続新時代
3. 共同作業を可能にした新しいソフトウェア
4. アップローディング: コミュニティの力を利用する
5. アウトソーシング: Y2Kインドの目覚め
6. オフショアリング: 中国のWTO加盟
7. サプライチェーン: ウォルマートはなぜ強いのか
8. インソーシング: UPSの新しいビジネス
9. インフォーミング: 知りたいことはグーグルに聞け
10. ステロイド: 新テクノロジーがさらに加速する

開発主義プロトタイプ

1. 私有財産制に基づく市場競争を原則とする。
2. 政府は、産業政策を実行する(つまり、新規有望産業
限界費用逓減産業 の育成にあたって、裁定者・仲裁者
として価格の誘導にあたる。技術の輸入や開発の促進もそ
こに含まれる)。
3. 新規有望産業の中には、輸出指向型の製造業を含めておく。
4. 小規模企業の育成を重視する。
5. 配分を平等化して、大衆消費中心の国内需要を育てる。
6. 配分平等化の一助とおう意味を含めて、農地の平等型配
分をはかる。
7. 少なくとも中等教育までの教育制度を充実する。
8. 公平で有能な、ネポティズムを超えた近代的な官僚制を作
る。

新ミドルクラスに必要な人材

- 偉大な共同作業員・まとめ役(マネジメント能力)
- 偉大な合成役(マッシュアップ)
- 偉大な説明役
(複雑なものを見て、わかりやすく説明する)
- 偉大な挺入れ役
(マシンと人間のハイブリッドとしての生産性)
- 偉大な適応者(なんでも屋)
- グリーン・ヒーブル(環境問題)
- 熱心なパーソライザー
(人間同士のやりとりという技術の復活)
- 偉大なローカライザー
(中小企業とグローバルのローカル化)

理想の才能を求めて

momo

- 学ぶ方法を学ぶ
(今知っていることは思ったよりも早く時代遅れになってしまう)
- IQよりもCQ(好奇心指数)とPQ(熱意指数)が重要
(好奇心の強い子供ほど一生懸命学ぼうと努力するものだ)
- 人とうまくやる
(人を好きにならなければならない)
- 右脳の資質
(ここでは、『ハイコンセプト』を引用して説明している)
- チューバと試験管
(才能のある学生の大部分は、教室で教わることよりも、創造的な表現手段のほうに興味を示す)
- 理想の国

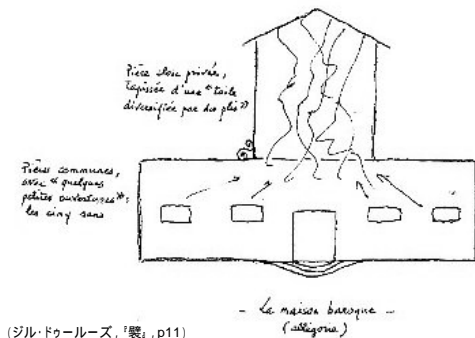
理想の国 アメリカと云う文化

momo

- 規制が緩和された柔軟な自由市場経済がある。
- イノベーション発生マシン 大学、官民の研究機関、小売業者、資本市場 がある
- 開放的な社会 なんでもできて、なんでも始められて、潰れてもやり直せる社会 がある
- 質の高い知的財産保護制度がある
- 柔軟な労働法がある
- 世界最大の国内消費市場がある
- 高度な信頼がある 山岸俊男の云う「一般的な信頼」である

米国の一階部分 「われわれ」

momo



(ジル・ドゥールーズ, 『巽』, p11)

しかしそれは

今はうまく機能していない

とフリードマンは云う。

momo

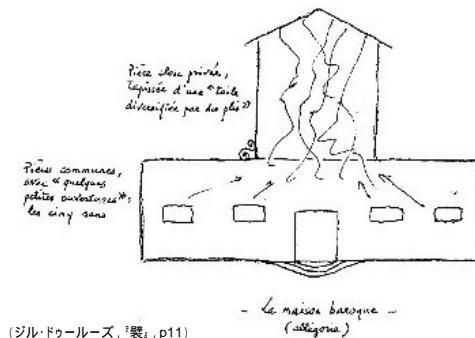
貧困な象徴を象徴としている
象徴の貧困

リバタリアニズム

momo

日本人の一階部分 「われわれ」

momo



(ジル・ドゥールーズ, 『巽』, p11)

拒絶的な受容

momo

日本社会においては、まさに近代化=文明化を可能にしている普遍性を拒否することを媒介にしてこそ、普遍性の等価物が導入されているのである。

大澤真幸『行為の代数学』:p370

とりあえずは、大きな動きの中で流れて、それ以上のスピードで流れていくことで独自性を保つ。

momo

川俣正

近代化は
合理化の過程である

momo

近代化
脱呪術化

momo

5 チキンフィレオ



マクドナルド化



momo

合理性の強調

効率化
予測可能性
計算可能性
脱人間化

momo

それだけではない

楽しさ

日常の中の非日常



非合理性

共感 = 芸術的 = 縄文的

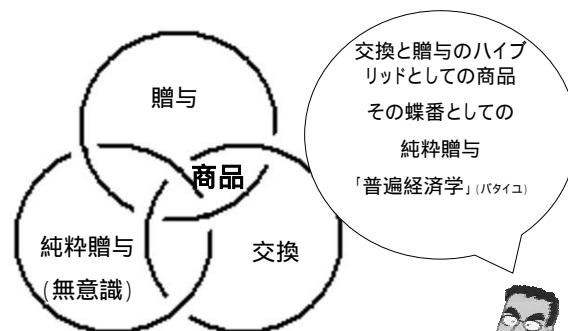
合理に非合理を突きつけ
無償を爆発させる

岡本太郎

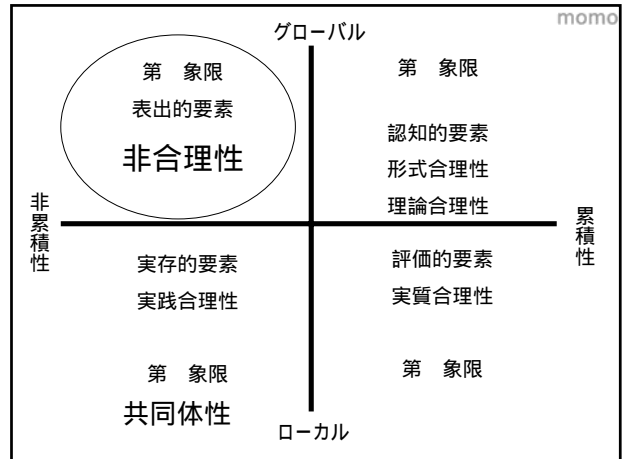
「なんだ、これほ！」
ってなんだ？」



経済のトポロジー



非合理性は 何処にあるのか？



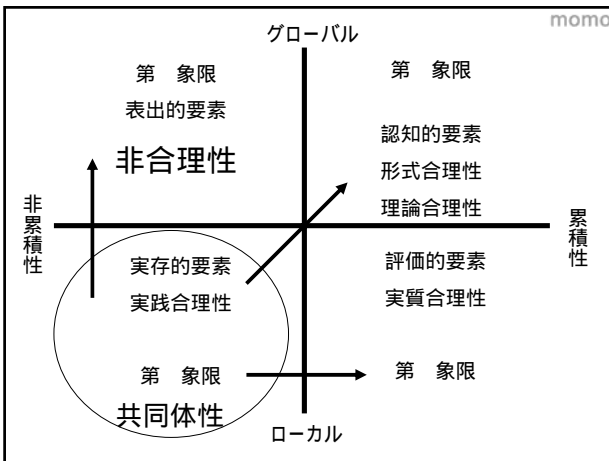
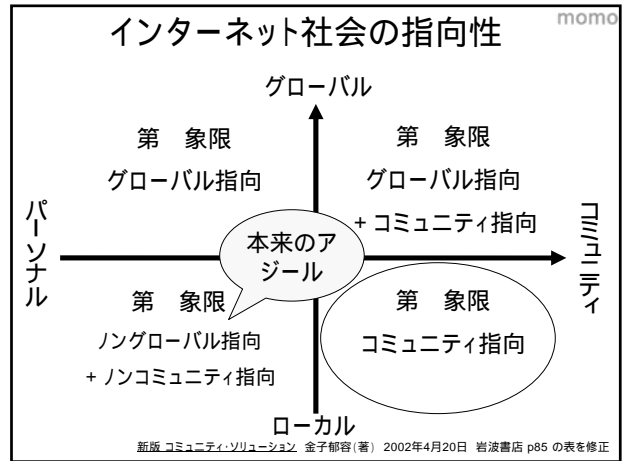
四つの合理性

実践合理性
いつもこういう形でやっている、毎日このような形でやりながら特定のゴールに到達するためにもっともいい実践的な方法を見つける。習慣的な形をとってゴールに到達する。

理論合理性
知的なツールを使って考えて、特別な状況にどのように合理的に対応していったらいいかということを考える。

実質合理性
文化的な価値があってそれを使えば目的に到達するための一番良い手段を定義してくれる。文化的な価値がベースとなって、どのようにゴールに到達するかということの示唆がある。

形式合理性
目的に到達するための最適手段を決定するのに役立つルールや規則を備えた、より大きな構造が存在する。



(仮説)
非合理に合理は上書きできるが
合理に非合理は上書きできない

日本の近代化 産業化 明治維新？



江戸時代の鎖国政策に 発達した アジール的な商人や 工業の世界

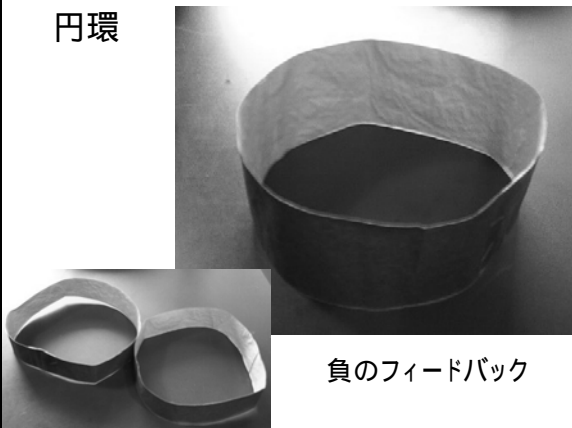


アジール

共同体モデル

共同体は農村的。
安定した同一性をそなえた空間。
合理のシステム。
農業民。定着。土地に人々は結びつき、それを
土台として権力は成り立つ。
人々を結びつけるさまざまな「縁」でできている。
人の社会的地位はその縁によって決定される。
同一性の原理が働く。
排他的な超越する神。「正しさ」を支える法の神。

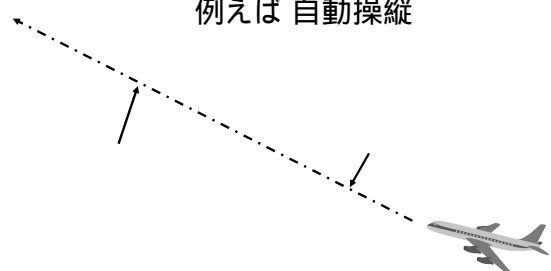
円環

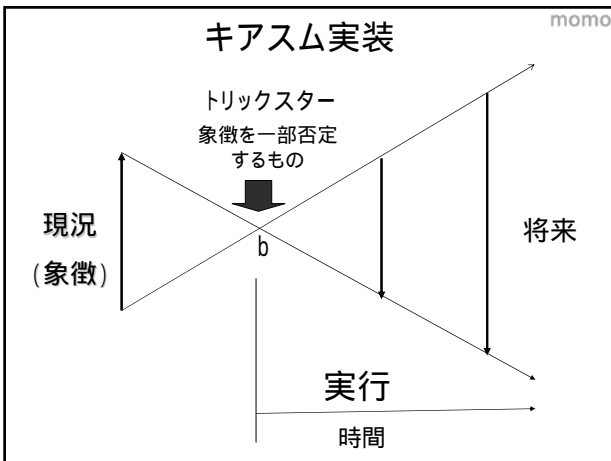
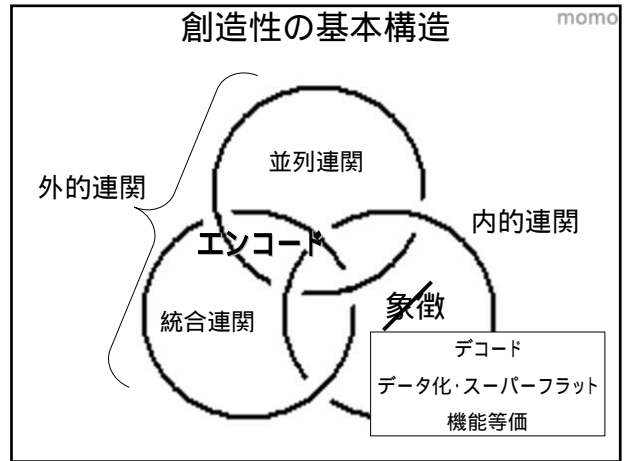
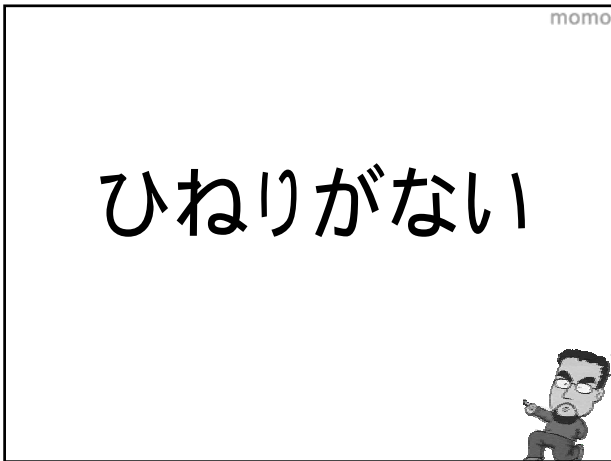
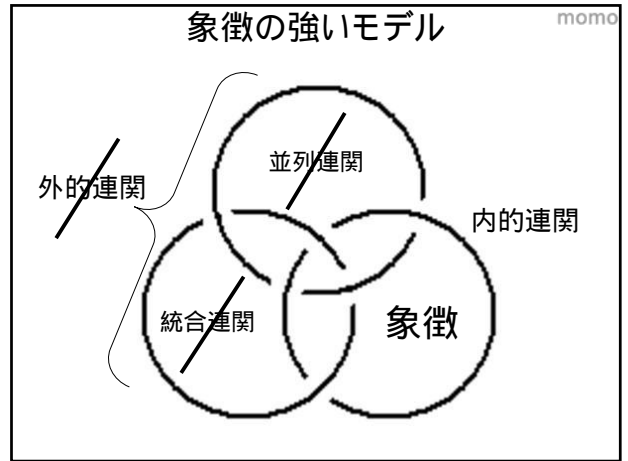
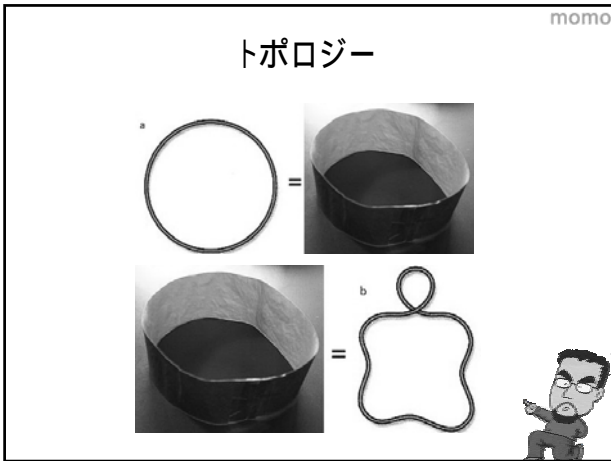


負のフィードバック

負のフィードバック

一定状態が安定に存在する
例えば 自動操縦





公界(組合)の原理

momo

組合は非農業的、アジールの。
 同一性をもたないトポス。
 非農業民。非定着、無縁。「原始・未開以来の自由の伝統を生きるもの」(網野)
 「数の原理」で組織される(年齢や年次や受けたイニシエーションの回数など)。
 同一性にかわっての差異を尊重。個性の重視。
 霊的ではあるが肉体性をそなえた神。
 未知のものを表現する芸術の神、文学の神。

イエの原理

momo

1・イエの内部の関係は、しばしば擬制的な血縁として理解されることはあるが、原則的には血縁関係を越えている。イエへの参入は、自覚的な選択意志に従う。この点で、イエは、契約に似ている。だが、一度イエのメンバーになれば、イエへの帰属は、無期限で無限定である。この限りでは、イエは、血縁集団に類似している。それゆえ、フランスシシュエは、イエ内の関係を統括する原理を、「縁約 kin-tract」と呼んだ。イエは、(参入についての)選択の対象として措定される限りでは、経験的な実体だが、他方で、一度参入した後は、メンバーにとって生の不可避の前提として機能するという点に着眼すれば、一種の超越論的な条件のごときのものである。ロバート・スミスも述べているように、西欧にイエと類似したシステムを見るとすれば、それは[法人 corporation]である。

2・永続的な存続が、イエのメンバーの共通の集合目標となっている。その世代間的な持続は、(擬制的な)系譜的連続性として了解されている。

3・イエは、上記の集合目標のための経営体である。そのメンバーは、目標との関係で、機能的な役割を与えられ、その役割の全体は、階層的な秩序を構成する。

4・各イエは、高度に自立的である。イエ成員の生活資料は、しばしば、自給自足的に調達される。イエは、ときに自己防衛のための軍事力を有することもある。婚姻が内婚的な場合すらある。イエの規範的な秩序は、外部の集団から高度に独立している。すなわち、イエは、サンクションのような統制メカニズムに関して、外部からの干渉を基本的に受けない。たとえば、徳川時代において、最大のイエである幕府は、各大名のイエの内政に干渉することはできなかったのである。

イエの原理は
 キアスムと
 円環の

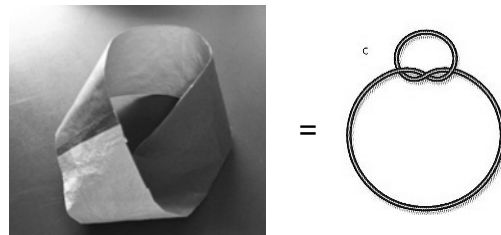
ハイブリッドのようなものだ

momo



キアスムのトポロジー

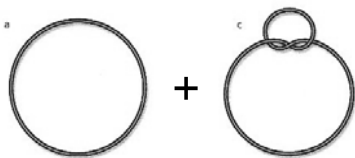
momo



正のフィードバック

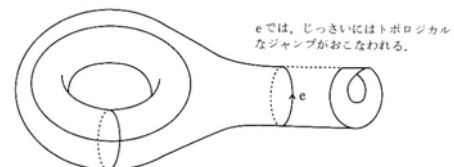
イエのトポロジー

momo



イエのトポロジー

momo



トラスとメビウスの帯を連結したイメージ

中沢新一「芸術人類学」:p91



私たちは、基本的には

なのである。

つまり
日本語で考える
バイロジック的な私

新聞をよむ 音 = どく 読む

和歌をよむ 音 = えい 詠む

音読み(漢字の象形)が訓読み
(かな)に注釈を与える

時枝文法
詞と辞

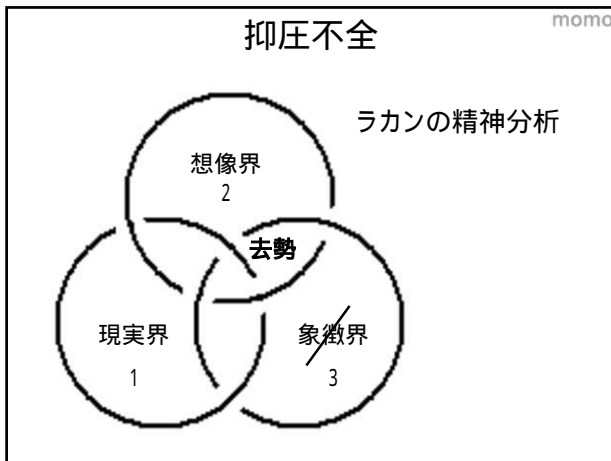
オマエ フトコロ オカネアル
ソノオカネダス コロサナイ

お前の懐には金があるだろう。
その金を出せば殺しはしないよ。

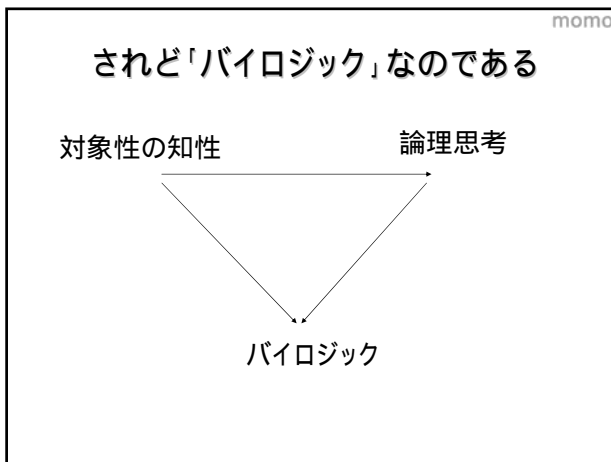
場 間主体

へその緒がつながっている

$2 = (1 + 1) = 1$ (主客非分離)



未熟
な
個と社会？



観察すること
言語化すること
バルネラブルに表現すること
そして、つながること

象徴の一部否定
拒絶的な受容

一部否定すべき象徴とはふたつある
オールドタイプ(非合理性)
そして
フラット化(合理性)

もちどっこむ

momo

桃知 利男



E-mail pinkhip@dc4.so-net.ne.jp

URL <http://www.momoti.com/>

ご面倒でも私宛の連絡はメールでお願いいたします。

(c) Copyright TOSIO MOMOTI 2006.All rights reserved.
無断複製厳禁